

CSR報告書

2022



八千代工業株式会社

基本理念

人 間 尊 重
顧 客 第 一

社 是

わたしたちは、世界的視野に立ち、
お客様の満足のために、
卓越した技術と特長ある製品を供給する。

ヤチヨグループが目指す目標

ヤチヨグループはヤチヨ企業理念の実践を通じて、
「社会からその存在を認められ、期待される企業を目指す」

わたしたちは企業理念に基づき行動規範を定め、企業価値を高める活動に努めています。
CSRの取り組みはこちらからアクセスしてください。



八千代工業 CSR



行動指針

- 常に夢をもち若さを保つこと。
- 感性を磨き技を鍛えること。
- 安全で明るく調和のとれた環境を作ること。
- 時間と独創性を重んじること。
- 自らの目標に向かって粘り強く努力すること。

会社概要

社 名 八千代工業株式会社
英 文 社 名 Yachiyo Industry Co., Ltd.
設 立 1953年8月27日
代 表 者 可知 浩幸
資 本 金 36億8,560万円
従 業 員 数 単独：820名 連結：6,662名
※2022年3月31日現在
本 社 〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地
電 話 04-2955-1211 (代表)
上 場 取 引 所 東京証券取引所 スタンダード



目 次

ヤチヨ企業理念	01
八千代工業について	03
沿革	05
トップメッセージ	07
CSRマネジメント	09
環境マネジメント	11
安全衛生マネジメント	17
サプライチェーンマネジメント	20
品質マネジメント	21
人材マネジメント	23
社会貢献	25
コーポレートガバナンス	27
環境データ	31
財務・非財務ハイライト	33

製品ポートフォリオ

クルマの機能部品（サンルーフ・燃料タンク）の開発・製造と樹脂製品・補修パーツの製造などを行っています。

四輪

樹脂製品 … 26億円

二輪・四輪向けの樹脂製部品を製造しています。高い気温や紫外線の影響などを受ける厳しい環境下でも高い品質を実現しています。



補修パーツ … 51億円

クルマを修理する場合などに交換で必要となる補修用の樹脂および板金部品を、生産から梱包まで一貫して手掛けています。



燃料タンク … 442億円

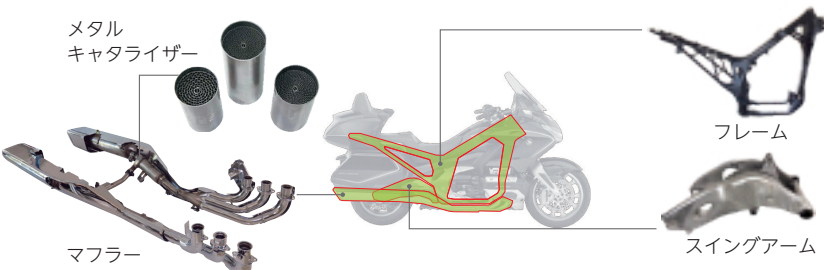
衝突時などの安全性や環境規制への対応に加え、広い車内空間に寄与するために、薄型化や形状を進化させた製品を供給しています。



二輪

二輪部品 … 609億円

子会社である合志技研工業グループで、排気部品、骨格部品などを製造しています。



● その他 … 43億円

運転補助装置

四肢に不自由を感じる方の運転をサポートする装置の適合開発から製造を担っています。



CFRP製品

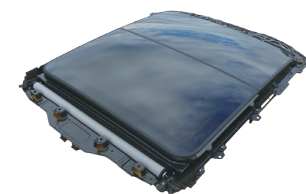
先端素材のCFRP※を用いた製品開発を行っています。



※Carbon Fiber Reinforced Plastics（炭素繊維強化プラスチック）の略

● サンルーフ … 471億円

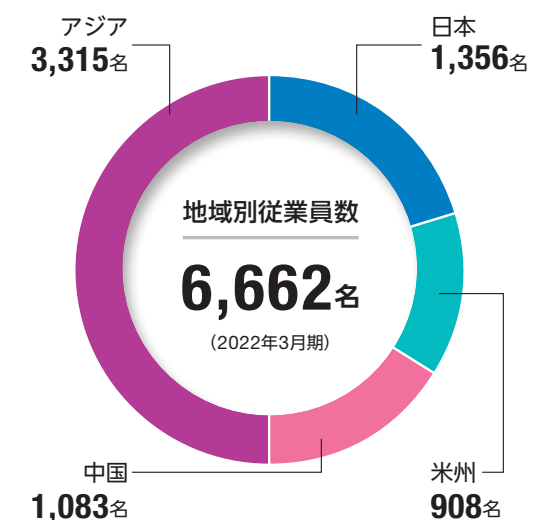
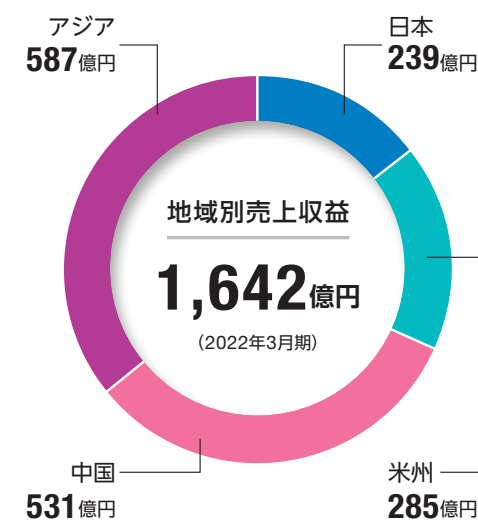
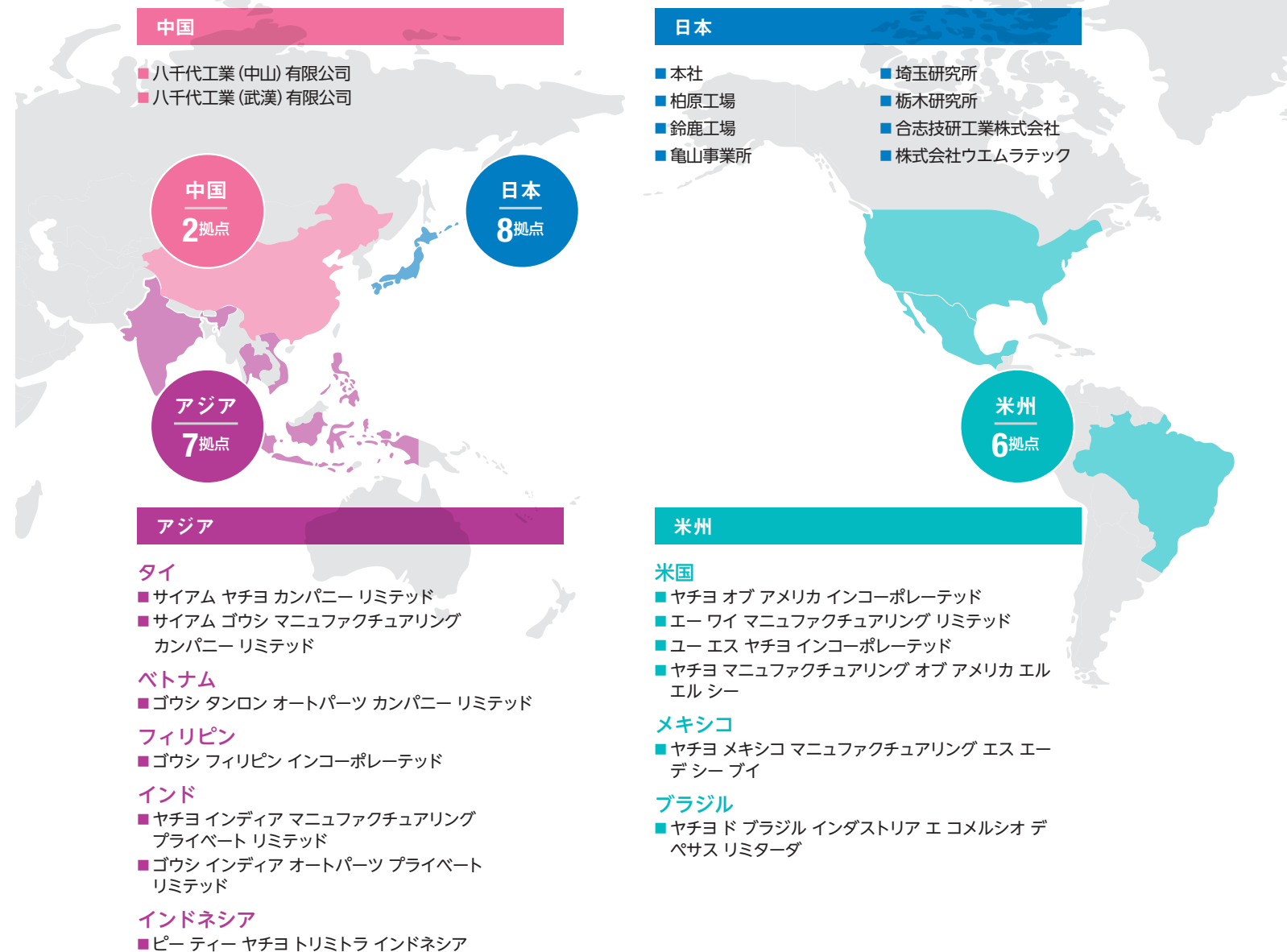
基礎研究から量産までの一貫体制を強みとし、開口面積あたりの重量において、世界トップクラスの軽さを実現しています。



合志技研工業は、1974年にヤチヨ、Hondaおよび三恵技研工業株式会社の3社合併で設立され、2002年にヤチヨが子会社化しました。



グローバルネットワーク（2022年3月現在）



COMPANY

1953.8.27
八千代塗装(株)を設立

1960
鈴鹿工場を設立



1968
八千代工業(株)に
商号変更

1972
柏原製作所
(現 柏原工場) を設立



1986
栃木研究所を開設



1989
初の海外拠点を
カナダに設立
(現在は全事業を譲渡)

1997
タイにサイアム ヤチヨ
カンパニー リミテッド
を設立

米国にヤチヨ オブ
アメリカ インコーポ
レーテッドを設立

米国にエー ワイ
マニュファクチュアリング
リミテッドを設立

1998
亀山事業所を設立



1999
米国にユー エス ヤチヨ
インコーポレーテッドを
設立



2000
米国にヤチヨ
マニュファクチュアリング
オブ アラバマ エル エル シー
を設立
(2014年10月 ヤチヨ
マニュファクチュアリング
オブ アメリカ エル エル シー
に社名変更)



2002
中国に八千代工業
(中山) 有限公司を
設立



2004
ジャスダック証券取引所 (東京証券取引所
JASDAQ (スタンダード)) に株式を上場

2005
中国に八千代工業
(武漢) 有限公司を設立



2008
インドにヤチヨ インディア マニュファクチュアリング
プライベート リミテッドを設立



2009
ブラジルにヤチヨ ド ブラジル
インダストリア エ コメルシオ
デ ペサス リミターダを設立



2022
東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード) から
新市場区分(スタンダード市場)へ移行

2012
埼玉研究所を開設



メキシコにヤチヨ メキシコ
マニュファクチュアリング エス
エー デシー ブイを設立



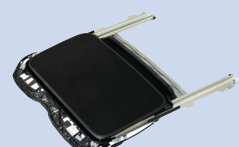
インドネシアにピー ティー
ヤチヨ トリミトラ インドネシア
を設立



PRODUCTS

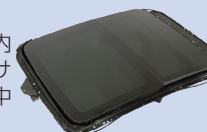
サンルーフ

1986
サンルーフを
柏原製作所で
生産開始



2014

開口部が広く、快適な室内
空間を実現するパノラマサ
ンルーフを八千代工業(中
山) 有限公司で生産開始



開発中

次世代車向けのガラ
ストップに適した軽量
薄型モジュール製品



厚さ約70%削減(従来比)

燃料タンク

1977
鉄製燃料タンクを
柏原製作所で
生産開始



1999
日本初量産
4種6層樹脂製
燃料タンクを柏原工場
で生産開始



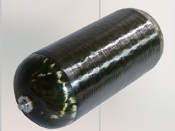
2017

機能部品を内面から溶着し、燃料蒸散量を
さらに低減させた燃料タンクをヤチヨ マ
ニュファクチュアリング オブ アメリカ エル
エル シーで生産開始



開発中

低炭素社会に貢献する水
素をエネルギーとする燃料
電池車向けタンク



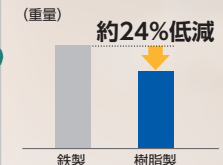
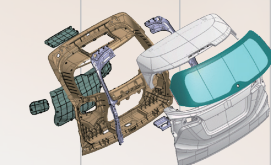
樹脂製品

1982
樹脂成形部品を
生産開始



開発中

構成する部品の統合や削減などを行い、
樹脂ならではの軽さを生かした樹脂バックドア
モジュール



その他

1972
「ステップバン」の完成車組立により
四輪受託生産スタート(現在は終了)



2012
運転補助装置の
開発・架装を開始



2014
陸上競技用
車いすの製造開始



2017
「Yachiyo Custom Parts」を
発売



2021
「ドライビングシミュレーター」を生産開始





企業理念は持続可能な社会の実現に向けた源泉

ヤチヨは、グローバル共通の企業理念に基づき、長期的な活動を事業に取り込むことで「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指しています。

企業理念は、ヤチヨで働く私たちにとって創業時から大切にしてきた思いや考え方であり、事業活動を展開していく上で必要不可欠な源泉となる考え方です。それを従業員一人ひとりに深く浸透・定着させるためには、企業理念を日頃から心がけ、身に着け、さまざまなシーンで実践することが重要と考えます。

ヤチヨでは、企業理念を実践するさまざまなプログラムの一つとして、従業員が持つ社会貢献への思いに応えられる「YVAP（ヤチヨ ボランティア アシスト プログラム）」を制度化しています。YVAPは「活動する自分自身がその活動の場で自分ができること、すべきことを自

身で考え、行動することが、人間形成を促す最適な場所になる」と考え、継続して活動をしています。

引き続き、持続可能な社会の実現に向けて、従業員一人ひとりが活動の源泉となる企業理念を学び、身に着け、実践する活動を展開していきます。

社会から期待され、成長し続ける企業を目指す

企業が成長し続けていくためには、事業活動はもちろん、環境法・環境規制への対応や省エネルギー化などの環境活動、従業員が安心して働ける職場環境への改善などが必要と考えています。

世界的な環境保全意識の高まりや自動車業界における電動化へのシフトが進む中、ヤチヨでは以前よりFCV用水素タンクの研究開発に取り組んでいます。二酸化炭

素や大気汚染物質を排出しないクリーンなエネルギーである水素は、環境負荷を低減した社会において利便性の高いエネルギーの一つであると考えています。ヤチヨでは、FCV用水素タンクの量産化に必要な国際認証の取得目標を2024年に定め、樹脂製燃料タンクやバンパーなどの樹脂成形部品で培った技術を活かし、水素社会の実現に向けてさらに技術を高めていきます。

ヤチヨでは、激しく変化する社会に追従し、より一層進化・発展させていくため「一致団結」「自ら挑戦し、進化する集団」をステートメントに掲げ、風土改革をスタートしました。この取り組みでは、経営の意思や方向性を正確に素早く共有する、ヤチヨで働きながらも自らが持つアイデアを具現化できる機会を創出する、などを展開しています。前年度においては『自ら挑戦し、進化する集団』へのキッカケづくりとして、テーマを製品に限定し、「ほしい」「やりたい」といったキーワードから連想するアイデアコンテストを実施しました。従業員一人ひとりの挑戦する機運を高める取り組みを多岐に渡って展開することで、ヤチヨを内側から活性化させ、ありたい企業風土の実現を目指します。

気候変動問題における企業の課題

ヤチヨは以前から環境負荷低減に貢献する活動として、二酸化炭素排出量の削減やエネルギーの高効率化などに取り組んでいます。各拠点では、生産特性に合わせた最適なラインの構築や加工工程における原材料およびエネルギーロスの低減など、拠点施策の事例を共有しグローバルで展開しています。しかし、カーボンニュートラルを達成するためには、現在のヤチヨが展開している施策の延長線上にある取り組みだけでは不十分であ

ると認識しています。

現在、地球規模の課題である気候変動問題については、世界共通の目標として2050年カーボンニュートラルが掲げられ、将来の世代も安心して暮らせる社会の実現に向けて取り組みがされています。また、自動車業界ではクルマの変革期と言われ、電動化が加速しています。今後ヤチヨでは、これまで以上に環境負荷低減の施策に取り組みのはもちろん、二酸化炭素や有害な排出ガスを出さない燃料電池車向けの水素タンクや軽量化によりクルマのエネルギー効率が高められる樹脂モジュール製品などの開発を加速していきます。

このレポートを手にした皆さまへ

ヤチヨは創業当時の「お客さまを大切にする心」そして「一度立てた目標は何としてでも達成する粘り強さ」を原点として、ものづくり企業としてステークホルダーの皆さまに支えられ、約70年間歩んできました。しかし、ヤチヨが置かれている環境は、気候変動問題やエネルギー多様化による社会構造の変化、お客さまニーズの多様化など目まぐるしく変化を続けています。

このような環境において、ヤチヨは「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指し、今ある強みを伸ばし新しい価値の創造にチャレンジし続けています。今後は、さらに総合力を高めるためにも人種・国籍・文化・年齢・性別などにかかわらず、ヤチヨで働く全員が一つのチームとなり、互いの異なる個性や持ち味を尊重し十分に力を発揮できるグローバル企業を目指し、さらにオペレーションを強化していきます。

ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

基本的な考え方

近年、気候変動の問題や生物多様性の喪失、貧困や格差、紛争や人権侵害など、環境、社会問題が多様化する中、企業には「環境」「社会」「経済」の視点から社会的課題の解決に積極的に取り組むことが求められています。

ヤチヨが行う事業そのものはもちろん、普段から取り組んでいる省エネルギーや節水、安全・品質活動、従業員への福利厚生など、すべての行動がCSR活動として社会的課題と密接につながっています。

このような新たな潮流の中、これからもヤチヨは企業理念の共有と実践を通じて、企業価値向上に向けた事業を展開することで、「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指します。



環境マネジメント

環境基本方針 / 環境マネジメント体制 / 環境マネジメントシステム / 気候変動への取り組み / マテリアルフロー / 2021年度 環境目標・環境実績 / 2022年度 環境目標 / 省エネルギー / オゾン層保護・地球温暖化への対応 / 汚染防止対策 / 法規制への対応



安全衛生マネジメント

安全衛生方針 / 安全管理体制 / 全社安全衛生委員会 / 安全衛生に関するリスクアセスメント・点検等の実施 / 安全衛生教育の実施 / 災害防止に向けて / 無事故・無違反への取り組み / 交通安全啓蒙活動の実施 / 防災活動における取り組み



サプライチェーンマネジメント

調達の方針 / 購買理念 / 購買原則 / サステナビリティガイドライン



品質マネジメント

品質方針 / 品質保証体制 / 品質マネジメントシステムの運用 / QCサークル活動の取り組み



人材マネジメント

人材育成の基本的な考え方 / 職場環境 / ダイバーシティ



社会貢献

地域に根差した活動

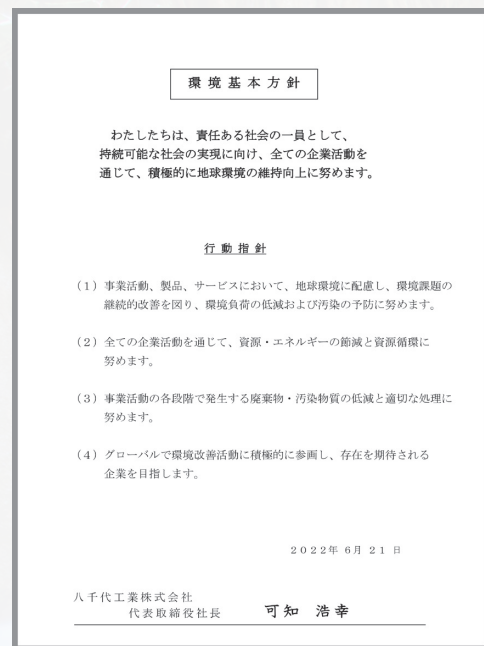


コーポレートガバナンス

基本的な考え方 / 企業倫理改善提案窓口 / リスクマネジメント基本方針 / リスクマネジメント体制 / リスクマネジメント実績 / 株主・投資家コミュニケーション

環境基本方針

ヤチヨは、環境基本方針に基づき、さらに各事業所においてそれぞれの方針を定め、環境保全活動を推進しています。



環境マネジメント体制

グローバルヤチヨとして環境への取り組みをさらに迅速なものとするため、環境担当役員と全ての事業所を直結の体制としました。

各事業所に統括責任者と推進責任者を配置し、海外事業所においては現地法人社長を統括責任者としています。



気候変動への取り組み

近年、地球温暖化による気候変動への対応が求められる中、自社領域におけるエネルギー起源のCO₂排出量のみならず、非エネルギー起源の排出量、スコープ3に該当するその他の間接排出量においても把握することにより、温室効果ガスの低減につなげています。

● 2021年度 温室効果ガス排出量

GHGプロトコル		排出量
スコープ1	エネルギー起源	4,649t-CO ₂
	非エネルギー起源	26t-CO ₂
スコープ2	間接排出	13,407t-CO ₂
スコープ1+スコープ2 合計		18,082t-CO ₂
スコープ3	カテゴリ1の一部	1,988t-CO ₂
	カテゴリ9	2,291t-CO ₂

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

用語の説明

- GHGプロトコル …… 温室効果ガス (Greenhouse Gas) 排出量の算定と報告の基準
- スコープ …… 温室効果ガス排出内容の定義
 - スコープ1 (直接排出量) = 事業者自らによる直接排出、燃料の燃焼、工業プロセスなど
 - スコープ2 (エネルギー起源間接排出量) = 他社から供給された電気、熱、蒸気の使用
 - スコープ3 (その他の間接排出量)
- カテゴリ …… スコープ3を15項目+その他 (任意) に分けたもの

CO₂排出量 低減施策

事業環境の変化に影響されにくい削減指標を元にCO₂排出量を把握しています。ヤチヨでは国内事業所を対象に全施策を環境委員会で一元管理し、全社環境委員会開催時に事例報告を行い、情報共有と水平展開を実施しています。

2021年度は主に、高効率設備への更新によるエネ

ギー効率向上、既存設備の改善によるロス削減などを含め、施策を展開しました。

管理項目	目標	実績
CO ₂ 排出量 低減施策効果	161t-CO ₂ /年	322t-CO ₂ /年 (27施策)

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

環境マネジメントシステム

国内事業所2地区、国内子会社1社、海外子会社14社で、ISO14001認証取得しています。

● ISO14001 認証取得状況

国 / 地域	拠点名
日本	八千代工業株式会社 柏原地区 (本社・柏原工場・埼玉研究所)
	八千代工業株式会社 鈴鹿地区 (鈴鹿工場・亀山事業所)
	合志技研工業株式会社
米州	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド (米国)
	エー ワイ マニュファクチャリング リミテッド (米国)
	ヤチヨ マニュファクチャリング オブ アメリカ エル エル シー (米国)
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチャリング エス エー デシー ブイ (メキシコ)
	ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ (ブラジル)
中国	八千代工業 (中山) 有限公司
	八千代工業 (武漢) 有限公司
アジア	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (タイ)
	サイアム ゴウシ マニュファクチャリング カンパニー リミテッド (タイ)
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (インドネシア)
	ヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベート リミテッド (インド)
	ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド (インド)
	ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド (ベトナム)
	ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド (フィリピン)

マテリアルフロー

事業活動 (研究開発、営業、購買、製造、管理) 全般における資源・エネルギーの投入量 (Input) と排出量 (Output) を把握し、事業活動に役立てています。

● 投入量 (Input)

区分	項目	使用量
エネルギー	電力 (買電)	32,455MWh
	灯油	7kL
	軽油	0kL
	LPガス	7.5t
	都市ガス	2,058千m ³
	電力 (太陽光)	0MWh
水資源	地下水	0m ³
	工業用水	19,970m ³
	上水	52,232m ³
化学物質	取扱量	364t
原材料	鋼材	309t
	樹脂材	6,126t

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

● 排出量 (Output)

区分	項目	使用量
排出	CO ₂	18,082t-CO ₂
	NOx	0.1t
	SOx	0t
	排水	27,886m ³
化学物質	VOC	506t
	PRTR対象物質	214t
廃棄物 原材料	産業廃棄物	577t
	直接埋立処分	0t
	社外リサイクル	577t
	有価物	4,080t

用語の説明

- NOx…窒素酸化物
- SOx…硫黄酸化物
- VOC…Volatile Organic Compounds=揮発性有機化合物
- PRTR…Pollutant Release and Transfer Register=化学物質排出移動量届出制度

🌿 2021年度 環境目標・環境実績

ヤチヨは、責任ある社会の一員として、全社方針として環境活動のグローバル展開を進めています。ヤチヨでは、とりわけ気候変動（地球温暖化）、エネルギーリスクを重要課題と認識し、環境負荷のさらなる低減に向けて取り組みを継続しています。

達成度判定 ○=95%以上 △=80%以上 ×=80%未満			
区 分	目 標	実績値	達成度
エネルギー起源CO ₂ 総排出量 ^{※1}	18,455t-CO ₂ 2019年度比 2%減	18,057t-CO₂ 2.0%減	○
CO ₂ 排出量 原単位 ^{※2} (付加価値額原単位)	2019年度比 2%減	6.2%減	○
VOC排出量 原単位 ^{※2} (塗装面積当たり原単位)	2019年度比 2%減	2.4%減	○
水資源使用量 原単位 ^{※2} (付加価値額原単位)	2019年度比 2%減	10.1%減	○
廃棄物量 原単位 ^{※2} (付加価値額原単位)	2019年度比 2%減	12.3%減	○
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.0%相当分削減)	161t-CO ₂	322t-CO₂	○

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

電力係数は、環境省・経済産業省が公表した電気事業者別排出係数を使用しています。

※1 CO₂総排出量は、日本が公表した2030年46%削減（2013年比）に準じて2030年50%削減（2019年比）、2050年カーボンニュートラル達成に向けた長期目標を設定しました。

※2 CO₂排出量、VOC排出量、水資源使用量、廃棄物量の原単位は、2019年度を基準年度に設定しました。これにより2020年度から2022年度の3カ年は、毎年度原単位1%減に設定しました。また、2020年度からは資源問題の観点から廃棄物の定義を有償物（産業廃棄物、事業系一般廃棄物）と有償物に変更しています。

🌿 2022年度 環境目標

2020年度から2022年度の中期3カ年環境目標を設定しています。2022年度の目標は次の通りとなります。今後もヤチヨは、持続可能な社会の実現に向けて、環境活動を中核課題とし、企業活動を強化していきます。

項 目	目 標
エネルギー起源CO ₂ 総排出量 [※]	18,267t-CO ₂ 2019年度比 3%減
CO ₂ 排出量 原単位 (付加価値額原単位)	2019年度比 3%減
VOC排出量 原単位 (塗装面積当たり原単位)	2019年度比 3%減
水資源使用量 原単位 (付加価値額原単位)	2019年度比 3%減
廃棄物量 原単位 (付加価値額原単位)	2019年度比 3%減
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (2019年度総排出量 1.0%相当分削減)	161t-CO ₂

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

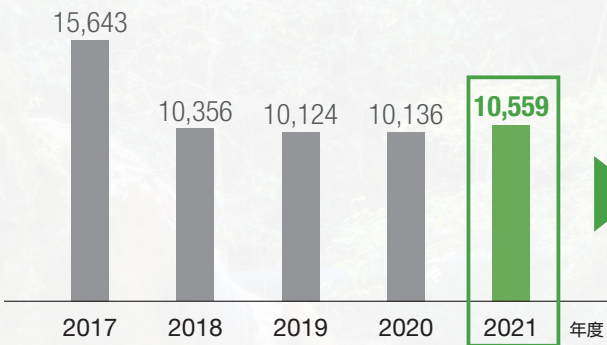
電力係数は、環境省・経済産業省が公表した電気事業者別排出係数を使用しています。

※ CO₂総排出量は、日本が公表した2030年46%削減（2013年比）に準じて2030年50%削減（2019年比）、2050年カーボンニュートラル達成に向けた長期目標を設定しました。

🌿 省エネルギー

2021年度のエネルギー使用量は、原油換算値で10,559KLとなり、前年度比104.2%となりました。原単位は、対前年度比103.5%、5年度間平均原単位の変化において101.5%^{*}となりました。今後、努力目標達成に向け、省エネ活動をさらに強化していきます。

● 原油換算値 (KL)

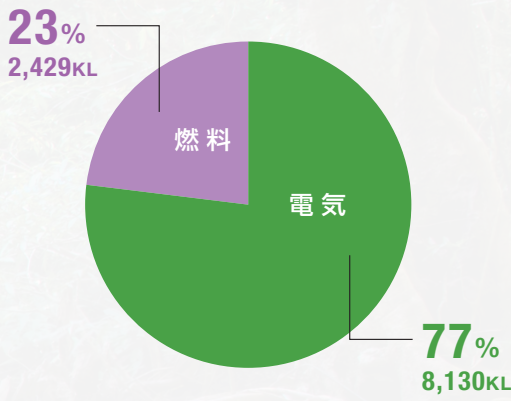


対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

※ 省エネ法（エネルギーの使用の合理化等に関する法律）

努力目標 5年度間平均原単位の改善率平均年1%

電気と燃料の比率



🌿 オゾン層保護・地球温暖化への対応

第 1 種特定製品

ヤチヨでは、フロン排出抑制法にある第1種特定製品をリスト化し、機器の点検、整備を全事業所で行っています。2021年度の算定漏えい量については、報告義務がありませんでした。

冷媒ガス	漏えい量	GWP (地球温暖化係数)	t-CO ₂ /t	CO ₂ 換算
R507A	0.5kg	3,990		2.00t-CO ₂
R404A	6.0kg	3,920		23.52t-CO ₂
算定漏えい量				25.52t-CO ₂

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

事業者は、第1種特定製品においては簡易点検（3カ月に1回）、一定規模以上の機器においては有資格者による定期点検（1年に1回または3年に1回）が義務化されています。整備に伴う冷媒ガスの漏えい量（充填量と回収量の差）が、1,000t-CO₂（GWPによるCO₂換算）以上の場合、事業所管大臣への報告が必要となります。

🌿 汚染防止対策

柏原工場、鈴鹿工場では、土壌および地下水の調査を行った結果、環境基準値を超えるテトラクロロエチレンが検出されたため、2004年から地下水揚水バリア井戸に浄化装置を設置し、浄化を継続して行っています。

定期的に、浄化状況について測定を実施し、市に報告を行っています。

🌿 法規制への対応

環境関連の法規制順守状況

2021年度、環境関連の法令違反はありませんでした。

環境関連の法の執行状況

省エネ法において、2016年度に制度化された事業者クラス分け評価制度では、2021年度はAクラス評価でした。クラス分けの判断基準となる2020年度定期報告の結果は、原単位では前年度比112.5%、5年度間平均原単位の変化では100.6%でした。

環境に関する苦情・トラブル

2021年度、地域などからの苦情はありませんでした。地域などから苦情を受けた場合、全社で情報共有を行い、同様の環境に関する苦情・トラブルの再発防止を図っています。

TOPICS

2022年3月16～18日に東京ビッグサイトで開催されたFC EXPO 2022にFCV向け水素タンクを出展しました。

樹脂製燃料タンクで培った技術を生かし、ノウハウを応用したFCV向け水素タンクは、オール樹脂製のライナーを採用しており、長い航続距離に貢献する軽量化ニーズにも応えることができます。ヤチヨでは、FCV向け水素タンクの量産化に必要な国際認証の取得目標を2024年に定め、水素社会の実現に向けてさらに技術を高めていきます。

これらの製品づくりでは、材料のリサイクル促進やロス低減、製造工程の効率化や省エネルギー化に取り組むなど、環境に配慮した取り組みを積極的に行っています。ヤチヨではこのような環境課題も企業戦略の一つとして推進しています。

ヤチヨは、製品を通じて環境に配慮した社会の実現に向けて取り組んでいきます。



水素・燃料電池展 FC EXPO 2022に出展

安全衛生方針

ヤチヨは、全社安全衛生方針に基づき、各事業所においてそれぞれの方針を定め、安全衛生活動を推進しています。

全社安全衛生方針

理念

ヤチヨは、ヤチヨで働く一人ひとりが安心して働ける労働環境を維持するために、職場環境のリスクを適切に管理し、安全で衛生的な職場づくりを行う。

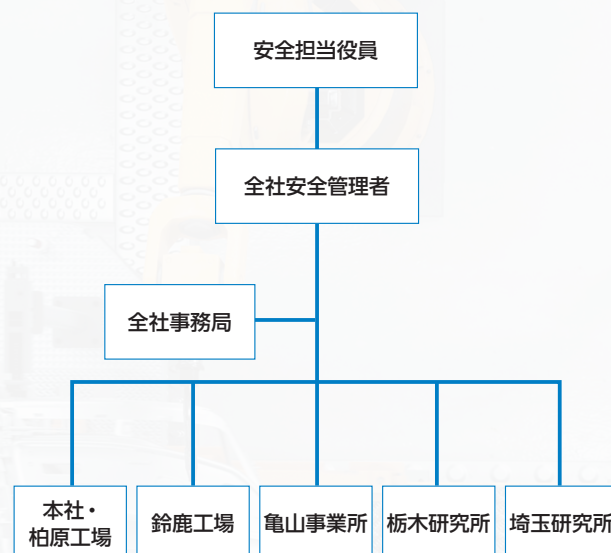
方針

1. 安全衛生関係諸法令および社内規定を順守するとともに、必要な自主基準を設け管理レベルの向上を図る。
2. 職場の整理・整頓・清掃・清潔・躰を徹底し、安全で衛生的な職場の維持向上に努める。
3. 喫煙に関するルールやエチケットを守り、受動喫煙防止を徹底する。
4. 職場の危険・有害要因の明確化とリスクアセスメントを実施し、「危険ゼロ」の安全で快適な職場づくりを推進する。
5. 職場の異常や、不具合を発見した場合は適切な処置をするとともに、直ちに上司に報告する。
6. 緊急時の対応手順や連絡先を常に把握し、災害時は、人命の安全を優先し被害の拡大防止に努める。
7. 全従業員の安全教育とコミュニケーションを図り、全員参加の安全衛生活動を実行する。
8. 過重労働およびメンタルヘルスによる健康障害を防止するため、衛生管理体制の充実を図り、従業員の健康確保対策を推進する。
9. 健康経営を積極的に進め、従業員の生活習慣病の未然防止を図り、健康増進に努める。
10. 本方針の実行に当たっては適切な資源を投入し、効果的な改善を継続的に実行する。

安全管理体制

安全担当役員をトップとする全社安全衛生委員会は、安全目標実施項目を年度ごとに策定し推進しています。

● 全社安全衛生管理組織図



全社安全衛生委員会

ヤチヨで働く一人ひとりが安全で安心して働ける労働環境を維持するために、職場環境のリスクを適切に管理し、安全で衛生的な職場づくりを行っています。ヤチヨでは全社安全衛生委員会を1年に5回開催し、事業所ごとの活動の確認と巡視の実施により労働災害防止につなげています。

また、各事業所では、安全衛生委員会のほかにも交通安全委員会、防災委員会を毎月開催しており、労使一体で安全衛生活動に取り組んでいます。

安全衛生教育の実施

新入社員や新任の管理監督者に対して安全衛生、交通安全に関する教育を実施しました。

新入社員教育	4月	9月
新任管理監督者教育（指導員、主任、管理職）	5月	7月
メンタルヘルス教育（セルフケア教育）	2月	3月
（ラインケア教育）	2月	

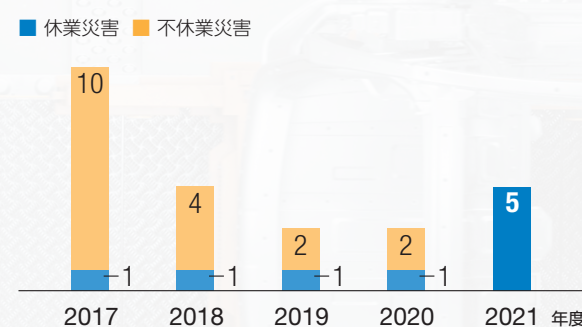
災害防止に向けて

災害発生状況

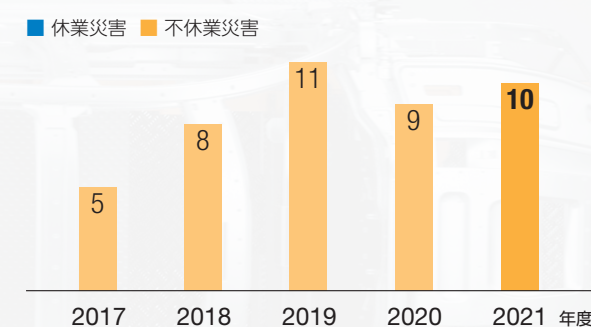
業務安全では災害の未然防止活動を実施しましたが、転倒災害や生産設備での休業災害が増加しました。発生した事象については対策と水平展開を実施し、再発防止に努めています。

交通安全ではさまざまな取り組みを行っていますが、2022年度も引き続き課題と捉え、全社で交通安全に関する取り組みを強化していきます。

● 業務災害件数



● 交通災害件数

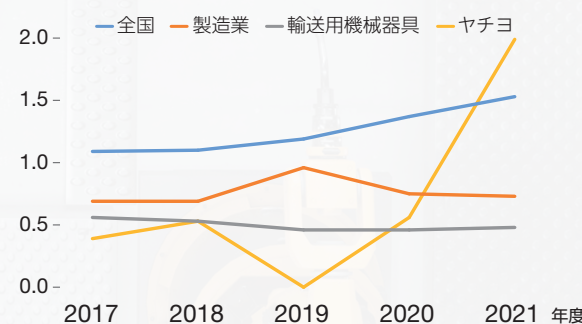


度数率・強度率比較

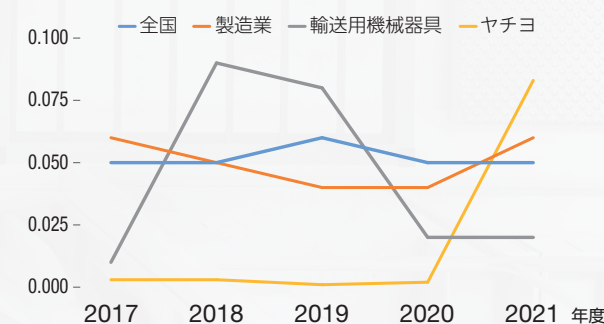
2021年度における休業災害は5件発生しました。

度数率（労働災害発生の頻度）で1.99、強度率（労働災害の重さの程度）で0.083となりました。災害原因の深掘りを行い、再発防止と各事業所へ水平展開を実施しています。また、災害“ゼロ”を実現するため、職場のリスクアセスメントの強化、そして従業員に対してはKYT（危険予知トレーニング）を継続実施しています。

● 度数率



● 強度率



※ 製造業：輸送用機械器具製造業（500～999人）

安全衛生に関するリスクアセスメント・点検等の実施

各事業所において定期的なメンテナンスや法定点検を実施し、点検結果を確認しました。

- 鈴鹿工場、亀山事業所では事業所のリスクアセスメントを実施し、顕在化されたリスクのうちリスクレベルの高い8項目について改善しました。
- 有機溶剤の取り扱い事業所で、化学物質のリスクアセスメントを実施し、従業員への周知を行い災害予防に努めています。

無事故・無違反への取り組み

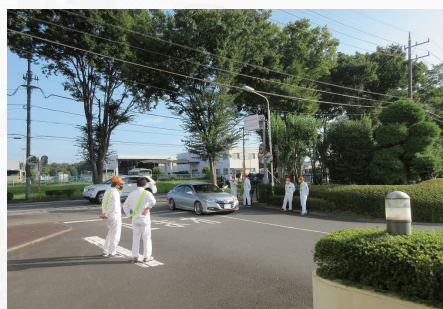
事業所別に、公安委員会等の無事故・無違反コンクールに参加登録し、従業員一人ひとりが取り組みました。

栃木研究所	
無事故無違反チャレンジ	16チーム (48名) 参加
埼玉地区	
交通安全コンクール	10チーム (100名) 参加
三重地区	
無事故・無違反チャレンジ123	84チーム (252名) 参加

交通安全啓蒙活動の実施

大型連休前の呼びかけ

大型連休前に連休中における交通事故ゼロを目指し、交通安全啓蒙活動を行いました。



交通安全ニュースの発行

各月ごとに特に注意することを交通安全ニュースに掲載し、交通安全に関する従業員の意識向上を図っています。

防災活動における取り組み

災害発生時の対応マニュアルの整備

災害（地震、火災、風水害）を想定した対応マニュアルを各事業所で策定したものを従業員へ周知しています。また、対応マニュアルは安全かつ迅速に避難できるように総合防災訓練などで実施検証した結果をフィードバックする改善も行っています。

総合防災訓練の実施

各事業所ごとに有事を想定した総合防災訓練を実施し、従業員の役割の再認識を行っています。

訓練内容

- 通報訓練（消防署への通報訓練）
- 避難訓練（従業員の避難訓練）
- 消火器取り扱い訓練

栃木地区…11月 埼玉地区…11月

夜間防災訓練の実施

火災により電気の供給が停止したことを想定し、非常灯での避難や初期消火および通報ができるかなどを含めた夜間の訓練を実施しました。

柏原工場…7月



調達の方針

ヤチヨは、技術・製品の競争力、事業、人材でトップランナーとなり、社会からその存在を認められ、期待される企業を目指しています。購買部門では競争力が高く魅力ある部品・材料の調達や取引を進めるにあたり「購買理念」、「購買原則」を定め、取引先との信頼関係を常に強化しています。

購買原則

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 取引先の尊重と相互信頼 | 取引先の主体性を尊重し、対等な立場で取引を行います。 |
| 2. 自由にチャレンジする調達 | 魅力ある製品を供給する取引先と積極的に取引を行います。 |
| 3. オープンで健全な調達 | 「ヤチヨ購買行動規範」を定め、オープンで健全な取引を行います。 |
| 4. 環境展開と法令遵守 | サステナビリティに対し積極的に対応していきます。
〈環境対応、紛争鉱物への対応、法令遵守、BCP、反社会的勢力の排除、安全・品質〉 |

サステナビリティガイドライン

ヤチヨでは、サステナビリティに対する考え方を取引先と共有し、積極的に対応するため「Yachiyo取引先サステナビリティガイドライン」を発行しています。このガイドラインを通じて、安全・品質、人権労働、環境、コンプライアンス、情報開示など問題事象の未然防止に努めています。

2021年度活動実績

1. Yachiyo製品化学物質管理基準書の改訂版発行 2021年4月、11月

ヤチヨでは、法規遵守と地球環境や生態系に与える影響の軽減を図ることを目的として、法規で使用の制限がある化学物質、使用量の届出義務がある化学物質、業界で使用量を監視する化学物質および適用除外項目を明確にしたYachiyo製品化学物質管理基準書を発行しました。

2. 温室効果ガスの排出量調査を実施 2021年4月~5月

地球温暖化による気候変動への対応が求められており、前年度比1%を目標に取引先36社に排出量の調査を実施しました。

3. コンフリクトミネラル（紛争鉱物）の調査実施 2021年7月~9月

調査内容： 3TG（タンタル、錫、金、タングステン）の含有の有無と供給元の製錬業者の特定調査を取引先18社に実施しました。

4. 取引先への方針説明とヤチヨ購買活動に貢献した取引先の表彰を実施 2022年3月

コロナ禍でも安心して取引先が出席できるようリモートで3年ぶりに方針説明を実施しました。取引先50社が出席し、ヤチヨの購買活動に貢献した取引先を表彰しました。
開発部門賞4社、品質部門賞3社、
原価部門賞1社、ホンダ製品ご愛好部門賞1社



品質方針

「顧客第一」を徹底し、私たちの製品を購入・使用していただく全てのお客さまの満足を得るために、全員参加で、グローバルに通用する信頼性の高い製品を提供します。

行動指針

お客さま要求事項への適合を図り、

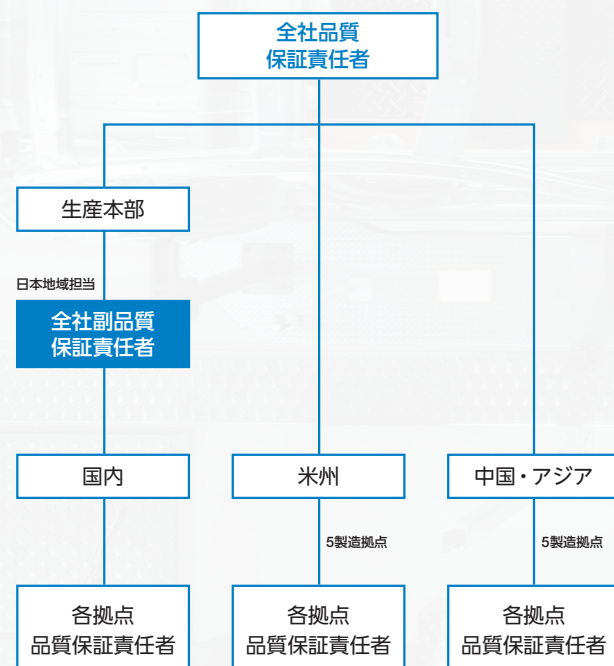
1. 品質方針を達成するため、品質目標を設定し、推進する。
2. 開発からサービスに至る全工程で品質マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的改善を図る。
3. 品質管理のルールを守り、安定した品質の製品を提供する。
4. お客さまおよび市場の要求品質を反映した製品設計仕様で、絶えず商品性向上を図る。
5. 独創的で信頼性の高い製品を提供するために、常に技術および技能の向上を図る。
6. サプライヤーとの共創で、製品品質の維持向上を図り、高品質の製品を提供する。

これらの品質管理活動が、現場視点で、常に、検証されること。

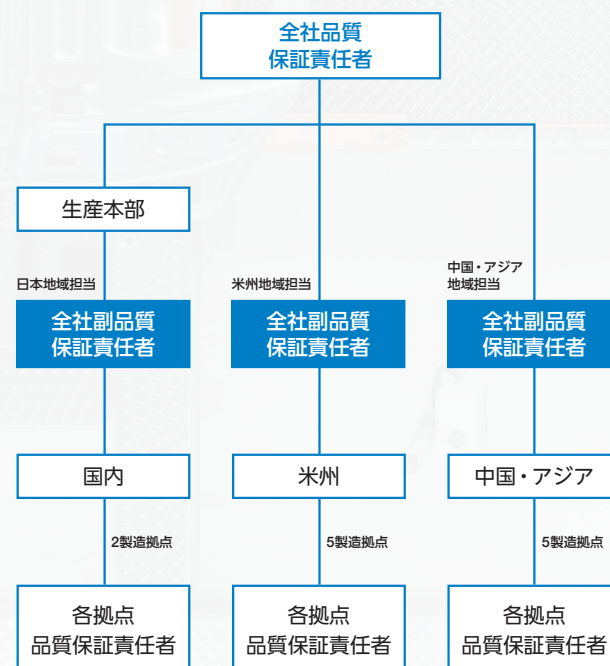
品質保証体制

2022年度からは、品質保証体制の盤石化を図るため、全社の品質保証活動を統括する「全社品質保証責任者」の下で、各機能を補佐する「全社副品質保証責任者」を各地域に追加配置しました。今後、製造拠点の「品質保証責任者」との連携強化を図ることで、より迅速で強固な品質保証体制を再構築していきます。

●2021年度



●2022年度



品質マネジメントシステムの運用

品質マネジメントシステム (IATF16949/ISO9001規格) 認証取得をしています。

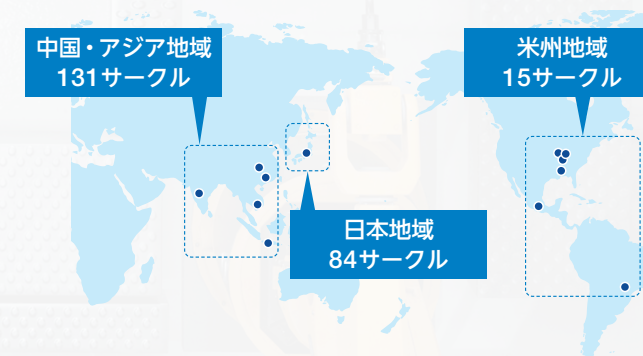
●IATF16949/ISO9001 認証取得状況

国 / 地域	拠点名
日本	八千代工業株式会社
	合志技研工業株式会社
米州	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド (米国)
	ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド (米国)
	イー ワイ マニュファクチャリング リミテッド (米国)
	ヤチヨ マニュファクチャリング オブ アメリカ エル エル シー (米国)
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチャリング エス エー デシー ブイ (メキシコ)
中国	八千代工業 (中山) 有限公司
	八千代工業 (武漢) 有限公司
アジア	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (タイ)
	サイアム ゴウシ マニュファクチャリング カンパニー リミテッド (タイ)
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (インドネシア)
	ヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベート リミテッド (インド)
	ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド (インド)
	ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド (ベトナム)
	ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド (フィリピン)

QCサークル活動の取り組み

ヤチヨでは、品質向上の一環として海外を含め全ての拠点で「QCサークル活動」を行っています。この活動の理念と狙いを共有しつつ活動の輪を広げ、働き甲斐のある明るい職場づくりはもとより、人材の活性化・職場の改善などで効果を上げてきました。

2020年度以降はコロナ禍による開催延期や縮小などの計画変更を余儀なくされていましたが、しかし、2022年度はこの影響を考慮し、QCサークル世界大会を計画することで、グローバルヤチヨで活動するメンバーのモチベーション向上に取り組みつつ、活動の活性化を図っています。



人材育成の基本的な考え方

ヤチヨ企業理念を基本とし、企業理念に定める5つの行動指針ごとの人材育成に取り組んでいます。

行動指針

- 常に夢をもち若さを保つこと。
- 感性を磨き技を鍛えること。
- 安全で明るく調和のとれた環境を作ること。
- 時間と独創性を重んじること。
- 自らの目標に向かって粘り強く努力すること。

「夢や希望を抱いてその実現のために思考し創造する存在」である従業員の成長と絶え間ない努力が組織を向上させ、ヤチヨを成長させ続ける原動力であると考えています。

職場環境

組織風土

従業員にとって、より生き生きと働きがいのある職場・組織・会社をつくり上げていくことを目的として、次の取り組みを進めています。

- **従業員意識調査**
会社に対する満足度向上を目的とした定点観測と改善項目の抽出を行い、課題解決に向けて取り組んでいます。
- **Hondaグループ従業員活力度調査**
Hondaグループ各社との比較から改善項目を抽出し、課題解決に向けて取り組んでいます。
- **ラウンドテーブルミーティング**
従業員と経営陣との対話を通じてコミュニケーションの活性化に取り組んでいます。
- **メンタルタフネスチェック**
従業員の心の健康状態を捉え、従業員自身にもセルフケアを促すことで、心の健康管理の向上に取り組んでいます。
- **マネジメント改革**
事業環境の変化を乗り越えるリーダーシップのさらなる発揮を目的にマネジメント層の育成強化に取り組んでいます。
- **企業風土改革**
大きな変革期を迎えている自動車業界において、ヤチヨで働く意義や魅力ある会社をつくることを目的に取り組んでいます。2022年からは「一致団結への変革」、「自ら挑戦し進化する集団への変革」の二つのステートメントを軸に企業風土そのものの改革にも取り組んでいます。

ワークライフバランス

従業員一人ひとりが会社で生き生きとその能力を発揮するためには、ワークライフバランスが重要であり、ヤチヨは「働きやすい職場」を目指すだけでなく、仕事と生活の両立に向けた各種制度の充実を図っています。中でも、労使で協力して適切な労働時間管理に取り組むとともに年次有給休暇については、前年度から繰り越された分の100%取得を基本として推進しています。

年度	2017	2018	2019	2020	2021
組合員数(人)	743	751	757	750	752
有給休暇	平均取得日数(日)	20.9	19.0	19.1	18.4
	繰越分総日数(日)	12,653	12,462	12,548	12,009
	繰越分総取得日数(日)	12,653	12,462	12,548	12,009
	繰越分取得率(%)	100	100	100	100
残業時間合計(時間)	188,661.0	187,283.5	152,663.5	141,222.0	148,098.5
残業時間平均(時間)	253.9	249.4	203.3	187.3	193.1

ダイバーシティ

仕事と子育てが両立でき女性の活躍を推進する職場づくり

次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される環境を整備することを目的として施行された「女性活躍推進法」「次世代育成支援対策推進法」に基づく行動計画の策定、および従業員周知、外部公表、都道府県労働局への届出を実施しています。

目標① 女性従業員の採用率を10%以上とする

目標② フレックスタイム制の拡充と在宅勤務などの柔軟な働き方に資する制度の導入を目指す

※女性採用実績は、P34「非財務関連データ(単独)」参照

また、「育児・介護休業法」の改正に合わせ、男性従業員も仕事と子育てがより両立できるよう、育児休職に関する制度の見直しと広く従業員の周知を行い、希望者が安心して制度を活用できるよう取り組んでいます。

障がいの有無にかかわらず誰もが働きやすい職場づくり

ヤチヨが今後も持続的に発展していくために、基本理念である「人間尊重」に基づき、一人ひとりの違いを個性として認め尊重し合い、多様な人材が持てる力を存分に発揮して、企業としての総合力を高めていきます。

※障がい者雇用実績は、P34「非財務関連データ(単独)」参照

【雇用継続への取り組みなど】

- 各事業所に、障がい者職業生活相談員を配置しています。
- 支援センターと連携し、当該従業員と定期的な個別面談を実施し、フォローアップを行っています。
- 障がい者合同就職説明会などで求人活動を行い、求職者に対して職場見学を実施し、マッチングを図っています。配属時には本人の適性を十分考慮し、働きやすい環境づくりに努めています。また、フレックスタイム制や短時間勤務の適用により、本人の体調に合わせた柔軟な働き方ができる仕組みを整えています。

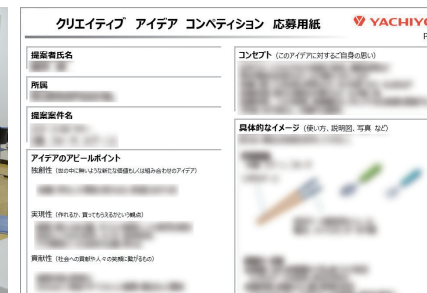
多様な働き方実践企業認定制度

2013年12月11日付けで埼玉県の「多様な働き方実践企業認定制度」に「ゴールド」区分で認定され、2018年10月1日には「ゴールド+」の認定を受けました。

ヤチヨは、引き続き、多様な働き方を実践することで、生き生きと働き続けられる環境づくりを推進していきます。

TOPICS 「自ら挑戦し、進化する集団」を目指したアイデアコンテスト

ヤチヨでは、従業員全員の力で「働く意義や誇り」が感じられ、「魅力ある会社」をつくることを目指して、企業風土改革を進めています。その改革の一つとして、アイデアコンテストを実施しました。ここでは、自身が持つアイデアや自身が普段から感じていることを実際に形にすることで、意識の変革から人の行動への変容につながる機会にしたいと考えています。



地域に根差した活動

お客さまや社会の期待を上回る商品・サービスの提供をはじめとする企業活動を通じて、社会に貢献するよう努めています。また、企業として社会的責任を果たすため、社会活動に取り組んでいます。

■日本

○陸上教室

狭山市の教育委員会、スポーツ振興課と陸上部、陸上部OBが地域交流の一環で、陸上教室を行いました。ここでは地元小学生を対象に、ランニングフォームやトレーニングのアドバイスなどを行いました。

今後も、スポーツ振興や地域交流などを通じ、多くの人たちに走る楽しさを伝える社会貢献活動を行っていきます。



○ものづくり現場を知るキッカケづくり

亀山事業所では、地域の環境団体や工業会、学校などの工場見学を通じて、ものづくりの現場を知るキッカケづくりをしています。今後もヤチヨのものづくり活動を通じて、より地域の皆さまに密接した企業活動に力を入れていきます。



○フードバンク活動

コロナ禍で収入が減った家庭のニーズや自分たちのできることを考慮し、従業員の家庭からまだ食べられる食材を集め寄付するフードバンク活動に取り組んでいます。

活動当初、集まる食材の数はほんの僅かでした。しかし、地道に継続することで徐々に食材が増え、今年度は17.5kg分の食材をフードバンクさやまへ寄付することができました。

社会や地域の課題解決に取り組み、社会の持続的発展に貢献していきます。



■米州

○チャリティー ウォーク「Walk to # ENDALZ」に参加 ヤチヨ マニュファクチャリング オブ アメリカ エル エル シー

「Walk to # ENDALZ」は世界最大のアルツハイマー病啓発活動として、米国各地で年に一度行われています。このチャリティーウォークの参加費は患者の支援や病気の研究費に充てられています。今後もこの活動に参加し、病気の撲滅に貢献していきます。



○「ミッド オハイオ・フードバンクプログラム」に参加 エー ワイ マニュファクチャリング リミテッド

生活に困っている方々に生活支援物資を贈る「ミッド オハイオ・フードバンクプログラム」に参加しました。参加した従業員は地域の方々と連携して活動し、飢餓のない、より健康的なコミュニティを作ることに貢献しました。



■中国

○社会福祉団体へ物品寄贈

八千代工業（武漢）有限公司

地域社会への一助として、毎年社会福祉団体へ物品を寄贈する活動を行っています。2021年は福祉団体を通して、近隣家庭へ米や油などの生活必需品を寄贈しました。



■アジア

○医療福祉施設への寄贈

ヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベート リミテッド

世界中で感染が拡大した新型コロナウイルスへの拡大防止支援として、マスクや消毒液、保護具などを寄贈しました。



基本的な考え方

ヤチヨは「人間尊重」「顧客第一」という基本理念に立脚し、株主や投資家の皆さまをはじめ、お客さま、社会からの信頼をより高め、「社会からその存在を認められ、期待される企業」となるため、コーポレートガバナンスの充実を経営の重要課題の一つと認識し、その取り組みを行っております。

組織運営においては、世界各地のお客さまの要請に応える事業運営を、迅速かつ適切に展開しながら、効果・効率の高い体制を構築しております。

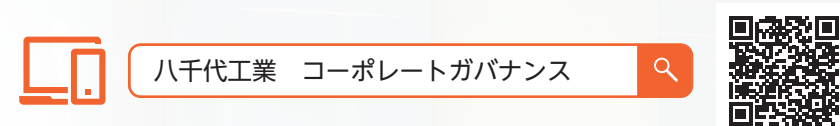
また、内部監査部門である業務監査室が各組織の業務活動全般の適法性、遂行状況について、効果的な監査を実施していくほか、各組織が自律性を高めながら、コンプライアンスやリスク管理に取り組んでおります。

経営の監視を客観的に行うため、社外取締役および社外監査役をおき、取締役会、監査役会において監督、監査を行っております。また、ヤチヨは、経営の監督機能と執行機能の分離、取締役会の機動性向上および経営の意思決定の迅速化を狙いとし執行役員制度を採用しております。

取締役については、経営環境の変化に対する機動性を高めるために、任期を1年としております。

株主や投資家の皆さまに対して、決算や経営政策の迅速かつ正確な公表や開示を基本とし、企業の透明性を今後も高めてまいります。

コーポレートガバナンスに関する報告はこちらからアクセスしてください。



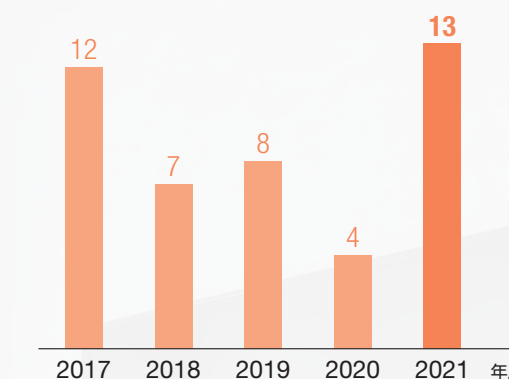
企業倫理改善提案窓口

ヤチヨは、企業倫理に関する問題の改善を図る仕組みとして「企業倫理改善提案窓口」を設置しています。

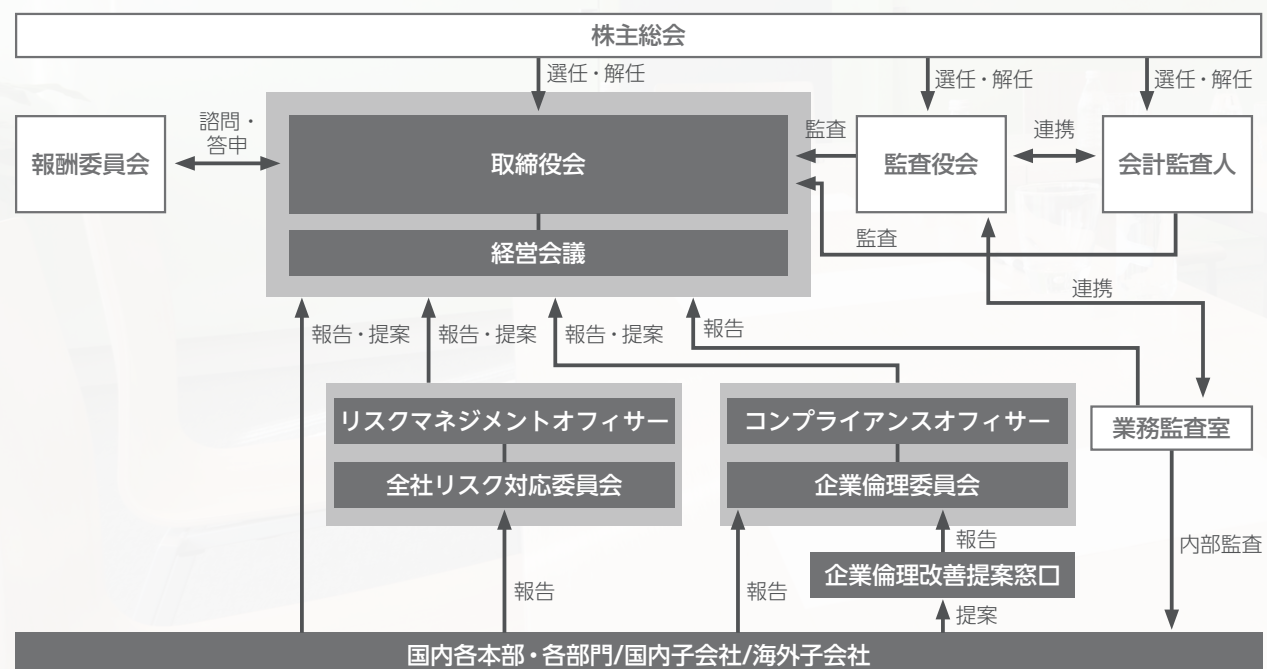
本窓口に寄せられた提案については、提案者が不利益を被ることのないようプライバシーの保護を図るとともに、公平・中立な立場で客観的に調査を実施し、適切な措置・対策を講じています。提案は、eメール、電話、手紙、FAXが活用でき、匿名での提案も受け付けています。また、女性が提案を受け付ける「セクハラ提案窓口」の設置や、外部窓口を設置することにより、提案しやすい環境の整備を図っています。

2021年度においては、従業員への企業倫理に関する啓蒙活動を行い、広く浸透させた結果「企業倫理改善提案窓口」（セクハラ提案窓口、外部窓口含む）への提案は13件ありましたが、全て対応は完了しています。

● 企業倫理改善提案窓口への提案件数



● コーポレートガバナンス体制の概要



リスクマネジメント基本方針

基本方針

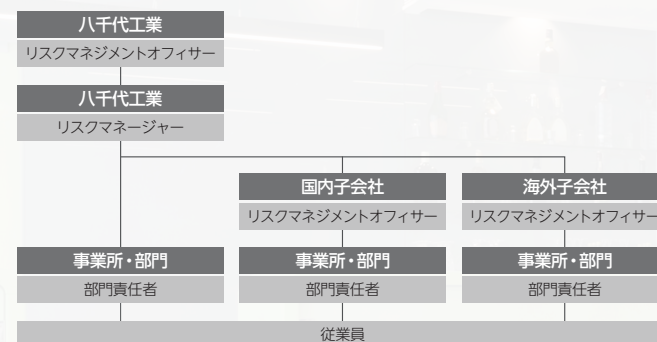
- 企業を取り巻くリスクを認識し、その発生可能性の低下と発生時の影響低減を図ることで、ヤチヨで働く全ての人々と地域住民の安全と健康を守り、企業活動の発展を確保します。
- 重大な危機が発生した場合は、迅速な対応を行い、人命の安全を確保するとともに、被害を最小限に食い止め、早期復旧を図り、お客さまへの製品・サービスの安定供給責任を果たします。

行動指針

- 全ての行動において、人命の安全を最優先とする。
- ヤチヨで働く全ての人々が、平常時よりリスクマネジメントの意識を持って行動する。
- 業務遂行におけるリスクを認識するとともに未然の防止策を策定する。
- 自らの安全確保ののち、まずは家族の安否を確認した上で業務に復帰する。
- 危機対応の方針、体制、責任を明確にし、業務の迅速な復旧を図る。
- 危機対応、復旧活動などの対策は、継続的な改善を図る。
- 社会や経営に重大な影響を与えるリスクに関し、適宜情報の開示を行う。

リスクマネジメント体制

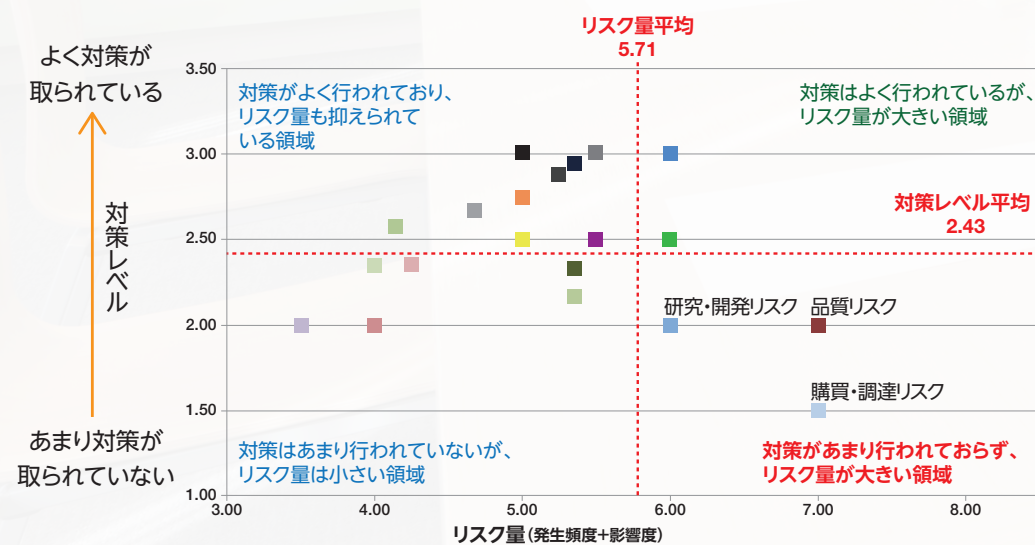
ヤチヨグループとして、リスクマネジメントへの取り組みをさらに迅速なものとするため、全ての事業所と直結の体制としました。



リスクマネジメント実績

2021年度リスクアセスメント結果からマッピングによるリスクの見える化を図り、優先的に対策を取るべきリスクを明確にしました。

● リスク量とコントロールの関係性



国内・海外子会社でも、各々重点リスクを抽出しPDCA展開を行うことで、リスクの低減を図る活動を実施しました。

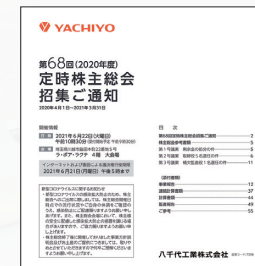
株主・投資家コミュニケーション

適時・適切な情報の開示

透明性の高い企業であり続けるために、株主・投資家の皆さまに適切な情報開示の促進を図り、積極的なコミュニケーションを取ることが重要であると捉えています。

5/31

招集通知発行(株主通信)



2021

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2022

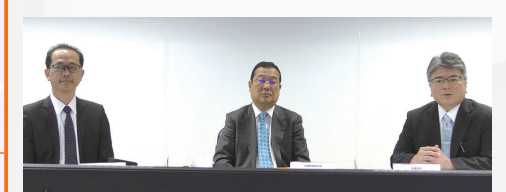
1月

2月

3月

5/19

通期 決算説明会開催



※リモートにて開催

9/30

CSR報告書発行

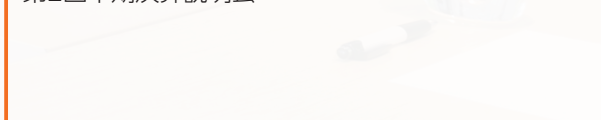


アニュアルレポート発行



11/9

第2四半期決算説明会



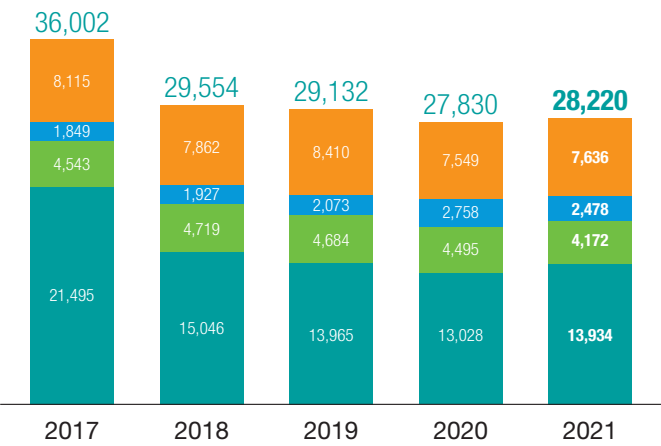
11/26

株主通信発行



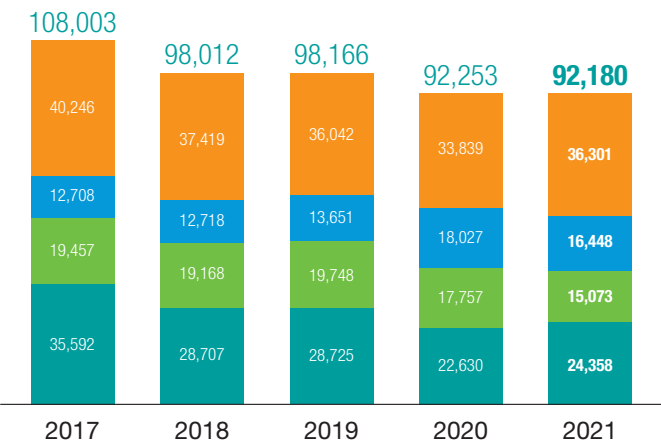
● エネルギー投入量 (KL)

日本 米州 中国 アジア



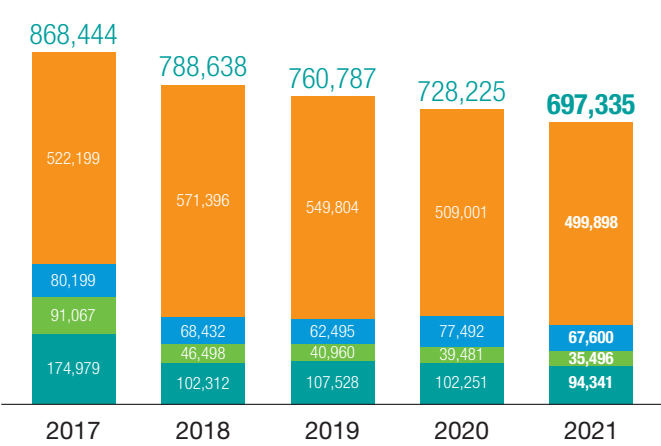
● CO₂排出量 (t-CO₂)

日本 米州 中国 アジア



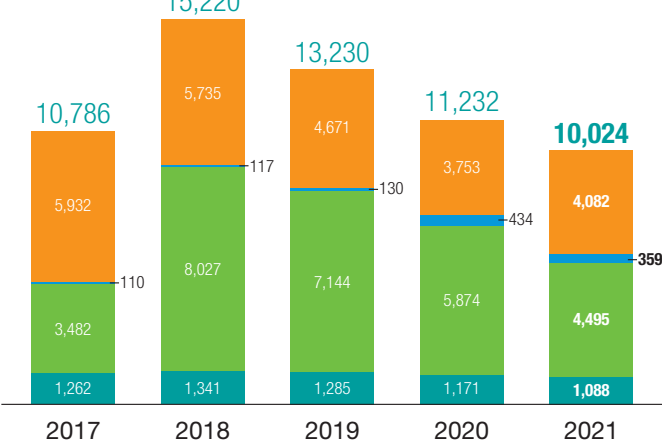
● 水資源使用量 (m³)

日本 米州 中国 アジア



● 廃棄物量 (t)

日本 米州 中国 アジア



地域	対象事業所 (従業員数)	エネルギー資源											廃棄物
		電気 (MWh)	太陽光発電 (MWh)	プロパンガス (kg)	都市ガス (千m ³)	天然ガス (千m ³)	灯油 (KL)	ガソリン (KL)	軽油 (KL)	重油 (KL)	E20エタノール / ガソリン (KL)	水 (m ³)	処分量 (t)
日本	本社および柏原工場 (418名)	9,575	0	5,244	434	0	0	0	0	0	0	23,803	194
	鈴鹿工場 (82名)	7,659	0	0	1,177	0	0	0	0	0	0	21,697	115
	亀山事業所 (143名)	10,039	0	0	447	0	0	0	0	0	0	17,578	176
	栃木研究所 (109名)	3,973	0	2,006	0	0	7	0	0	0	0	4,208	81
	埼玉研究所 (68名)	1,209	0	255	0	0	0	0	0	0	0	4,916	34
	合志技研工業株式会社 (401名)	5,895	10	170,016	325	0	300	9	3	6	0	18,193	426
	株式会社ウエムラテック (135名)	2,830	0	14,559	0	0	0	4	1	0	0	3,946	62
米州	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド (40名)	958	0	0	23	0	0	0	0	0	0	425	26
	ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド (263名)	19,402	0	0	0	247	0	0	0	0	0	8,445	2,421
	エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド (228名)	3,376	0	0	0	585	0	0	1	0	0	14,664	579
	ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー (188名)	7,876	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,797	714
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デシー ブイ (140名)	2,971	0	3,779	0	0	0	0	0	0	0	5,978	485
	ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ベサス リミターダ (49名)	1,685	0	1,966	0	0	0	0	0	0	0	2,187	270
中国	八千代工業 (中山) 有限公司 (451名)	13,727	0	0	0	22	0	11	0	0	0	37,770	43
	八千代工業 (武漢) 有限公司 (632名)	12,564	0	0	0	9	0	0	0	0	0	29,830	316
アジア	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (401名)	12,859	0	182,455	0	0	0	0	0	0	0	93,017	217
	ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド (58名)	2,917	237	0	0	0	0	0	11	0	0	8,764	0
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (37名)	1,419	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2,611	2
	サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド (775名)	17,455	234	12,384	0	1,016	21	0	0	0	0	222,048	1,148
	ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド (238名)	2,912	60	0	0	0	0	0	67	0	0	2,410	495
	ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド (1,436名)	19,221	0	463,491	0	0	0	29	30	0	0	115,638	1,394
	ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド (370名)	2,875	0	79,048	0	0	0	7	10	0	0	55,410	826

連結財務関連データ

百万円（1株当たり情報および財務指標を除く）

	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期
売上収益（継続事業）	165,562	161,160	154,629	157,231	164,230
税引前利益（継続事業）	9,223	928	807	6,110	11,907
当期利益又は当期損失（全事業）	7,555	△1,697	△1,838	226	6,406
親会社の所有者に帰属する当期利益又は当期損失（全事業）	4,796	△4,335	△3,169	666	5,154
当期包括利益（全事業）	6,849	△2,521	△4,810	5,583	12,250
親会社の所有者に帰属する持分	59,008	53,157	47,386	52,663	62,583
資産合計	131,278	118,832	117,219	126,448	143,279
1株当たり親会社所有者帰属持分（円）	2,457.30	2,213.64	1,973.31	2,199.82	2,614.22
基本的1株当たり当期利益又は基本的1株当たり当期損失（円）	199.73	△180.51	△131.97	27.77	215.28
希薄化後1株当たり当期利益（円）	—	—	—	—	—
株価収益率（倍）	6.7	—	—	23.0	3.3
親会社所有者帰属持分比率（％）	44.9	44.7	40.4	41.6	43.7
親会社所有者帰属持分利益率（％）	8.4	△7.7	△6.3	1.3	8.9
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,125	13,581	12,844	8,889	12,839
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,325	△8,962	△11,465	△7,337	△5,334
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,488	△3,197	4,601	△6,589	144
現金及び現金同等物の期末残高	19,010	20,470	25,121	21,738	32,253

1. 国際会計基準（IFRS）に基づいて連結財務諸表を作成しております。
2. 百万円未満を四捨五入して記載しております。
3. 希薄化後1株当たり当期利益については、希薄化効果を有する株式が存在しないため記載しておりません。
4. 2019年3月期および2020年3月期の株価収益率については、当期損失であるため記載しておりません。
5. 2018年3月期（2017年12月18日）開催の取締役会において、完成車事業を本田技研工業株式会社に譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結したことに伴い同事業を非継続事業に分類しております。

非財務関連データ（単独）

	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期
従業員数	868人	875人	867人	838人	820人
女性従業員割合	5.1%	5.4%	5.0%	5.7%	5.7%
管理職に占める女性比率	0.57%	0.58%	0.60%	0.65%	0.00%
障がい者雇用人数	19人	17人	19人	20人	17人
障がい者雇用率	2.80%	2.30%	2.73%	2.64%	2.34%
取締役人数	7人	6人	7人	5人	5人
(内 社外取締役)	1人	1人	1人	2人	2人
監査役人数	4人	4人	4人	4人	3人
(内 社外監査役)	3人	3人	3人	3人	2人
役員報酬総額	217百万円	179百万円	203百万円	143百万円	123百万円
新卒採用人数	14人	13人	19人	16人	21人
中途採用人数	10人	24人	10人	9人	0人
中途採用比率	41.7%	64.9%	34.5%	36.0%	0.0%
女性採用人数	3人	6人	1人	6人	2人
(内 新卒採用人数)	3人	2人	1人	1人	2人
(内 中途採用人数)	0人	4人	0人	5人	0人
女性採用比率	12.5%	16.2%	3.4%	24.0%	9.5%
新卒3年以内離職人数	1人	0人	6人	2人	4人
新卒3年以内離職率	3.70%	0.00%	13.33%	4.76%	7.41%
産前産後休暇取得人数	2人	2人	1人	3人	3人
育児休職取得人数	7人	5人	7人	8人	10人
育児短縮時間勤務利用人数	11人	12人	11人	11人	10人
介護休職取得人数	1人	1人	0人	2人	2人

集計対象期間

2021年度（2021年4月1日~2022年3月31日）

発行サイクル

年1回（前回発行：2021年9月）

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」および「GRIスタンダード（サステナビリティ報告ガイドライン）」

対象事業所

〈国内〉

八千代工業

本社および柏原工場（埼玉県狭山市）
鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）
亀山事業所（三重県亀山市）
栃木研究所（栃木県さくら市）
埼玉研究所（埼玉県狭山市）

国内子会社

合志技研工業株式会社（熊本県合志市）
株式会社ウエムラテック（熊本県球磨郡あさぎり町）

〈海外〉

八千代工業 海外子会社

ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）
エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド（米国）
ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）
ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）
ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ（メキシコ）
ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ（ブラジル）
八千代工業（中山）有限公司（中国）
八千代工業（武漢）有限公司（中国）
サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）
ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド（インド）
ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）

合志技研工業 海外子会社

サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド（タイ）
ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）
ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド（インド）
ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（フィリピン）

〈対象としていない子会社および関連会社〉

- 対象期間における事業活動を行っていません。
ラグナ アソシエ リアルティ インコーポレーテッド（フィリピン）
- 事業活動を現地賃貸事務所でっており、含めていません。
ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ベー ハー（ドイツ）



八千代工業株式会社

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地

TEL : 04-2955-1211 (代表)



発行2022年9月